明治十四年十一月十五日ヨリ

世界轉覆噺

四百年前「イタリヤ」國の人何某推測せしに紀元千八百八十一年十一月十五日即ち我明治十四年十一月十五日より日数十五日の間に天地潰れ山岳破裂して大火山を現し海水あふれ洪水となり人間をはじめ禽獣草木魚虫残らず死と云へり其割だて

十五日 川々へ水の入る事
十六日 大洪水
十七日 大つなみ
十八日 川の魚ことぐく死す
十九日 海の魚皆死す
二十日 鳥るゐ残らず死絶る
廿一日 大風家藏を倒す
廿二日 巌石八方へちる
廿三日 大地あれ
廿四日 山谷鳴動に
廿五日 悪き空気のために人間唖聾となる
廿六日 地上變じて人家地底に落る
廿七日 星雨の如く落ち下る
廿八日 世界の男女みな死んで仕舞ふ
廿九日 燃え出る噴火の為に万物溶解す

前に述る処ハ専ら欧州の景況を想像して記せし物也 然れバ共国より伝を金に見れバ「リシコオニシヤー」のごとぎ此変動を畏れ身を空中に逃と去も空気の通ふ所震動するハ自然の理にして奇人の苦心画餅に属せんとするを畏る者あり 以上ハ偽写の説を以て人心を惑るに足らざる妄説なり人々安心して業につきねへと云

大鯰

御届 明治十四年十月三日
画工編輯兼出版 弓町二番地 松井栄吉
價 五戔

明治九年十一月廿九日 焼場方角圖

昨廿九日午後第十一時過第壹大區六小區數寄屋町二番地
飼馬渡世鈴木某方ゟ出火檜物町元大工町上槇町川瀬石町
新右衛門町拇正町箔屋町下槇町通三四丁目南傳馬町一丁
目より三丁目迄中橋廣小路町南北槇町桶町南大工町南鍛
冶町五郎兵衛町疊町北紺屋町中橋和泉町大鋸町南鞘町松